

日本語の「後日の再感謝」ストラテジー — 中国語の談話との比較から —

市原 明日香

要 旨

日本語には「このあいだはどうも」等、以前に受けた恩恵に言及して感謝するという言語行動が見られる。記述式調査によれば、中国語より日本語のほうがこの言語行動の頻度が高く定型表現の記述が多いという(李, 2014)。では、「後日の再感謝」の使用は会話のやりとりの中でどのようなストラテジーとして捉えられるのだろうか。本研究では、「後日の再感謝」の特徴を明らかにすることを目的に、日中の母語話者の友人同士の会話データをロールプレイによって収集し、談話分析を行った。その結果、日本語ペアは後日の場面 3 パターン全てにおいて「ありがとう」を使用して感謝を表明したが、中国語ペアは後日の場面で感謝を表明しない傾向が見てとれ、先行研究の量的調査の結果が支持された。さらに、会話のやりとりから感謝ストラテジーを観察したところ、日本語では、感謝する側だけでなく感謝される側からも「後日の再感謝」が行われることが分かった。この言語行動には、相手の視点に立って相手の負担に配慮し、debt-credit equilibrium (貸し借りの均衡) の傾きを最小限にする (Ohashi, 2013) はたらきがあるためと考えられる。

【キーワード】感謝表現、感謝ストラテジー、対照語用論、談話分析、ロールプレイ

1. 問題の所在と研究目的

日本語では「先日はどうも」「このあいだはありがとう」といった、再会の際に以前に受けた恩恵に言及し、再感謝する発話行為がよく行われるが、英語や中国語などの言語ではあまり行われぬ (Ohashi, 2013; 李, 2014)。そのため、日本語学習者は、この発話行為に接した際にもっと欲しいと暗にねだられていると誤解する等、その意味や使用方法について戸惑う (川村, 1991)。また、日本語母語話者も、この「後日の再感謝」が期待される場面で日本語学習者からの発話が無い場合、礼儀を知らないと見なしたり、気分を害したりするなどして、人間関係構築に支障をきたす事例 (曹, 2008) もある。学習者と母語話者の双方にとって「後日の再感謝」という発話行為の言語間の差異を理解することは誤解のないコミュニケーションのために重要である。

本稿は「後日の再感謝」の場面における、中国語母語話者 (以下 CNS と記す) と日本語母語話者 (以下 JNS と記す) のそれぞれの母語話者同士の会話に注目する。「後日の再感謝」についての CNS と JNS の考え方の差異は、これまで記述式調査 (李, 2014) により量的に明らかにされているが、CNS と JNS のそれぞれの「後日の再感謝」の場面

における会話データを比較している研究は管見の限り見当たらない。記述式調査では使用の有無の意識や使用の可能性のある表現が示されているが、会話のやりとりの流れの中でそれらがどのように現れるのかは不明である。そこで、本稿は日本語の会話データを対象に、中国語の会話データと比較しながら検討することで、日本語の「後日の再感謝」が談話の中でどのような感謝ストラテジーとして使用されるのかを明らかにしたい。

2. 先行研究

「後日の再感謝」について述べている先行研究は、これまでに川村 (1991) がある。JNS の大学生を対象にした記述式調査で、相手への配慮を示すために恩恵の移動を示す授受動詞「もらう」「くれる」の使用が必要になることを明らかにしながら、「後日の再感謝」にも触れている。「先日はどうも」のようなあいさつは「相手からの恩恵に対する配慮」であり、これに対し「こちらこそ」と返答することは「貸し借りなし」であることを示すための相手の心の負担に対する配慮であり、人間関係維持のストラテジーとして重要だ (川村, 1991) という。一方、中国語の「後日の再感謝」については李 (2014) が

ある。CNS は「後日の再感謝」について、「何のために何回も感謝するのか。他人行儀に思われないのか」「中国人の目から日本人がせせこましく、付き合いづらいと映る」など、「否定的に受け止められることが多い」(李, 2014:25)。CNS の記述回答によれば、贈り物や借金などの場面で後日に再感謝をすると回答した数が JNS よりも少なく、JNS と比較して慣用句の使用が少ない(李, 2014)。

先行研究ではいずれも記述式調査を分析データとしている(川村, 1991; 李, 2014)。そのため、会話のやりとりの流れの中で「後日の再感謝」がどのように現れるのか、また、これがどのような言語行動なのかは推察にとどまっている。会話データを検討することによって、この言語行動がどのようなものなのかが捉えられ、日本語の会話教育に示唆を得ることができるだろう。

3. 研究課題

本論では以下を研究課題とする。JNS と CNS のそれぞれの母語話者同士の会話で、「後日の再感謝」はどのように現れるのか。「後日の再感謝」はどのような感謝ストラテジーとして使用されるのか。

4. 研究方法

日中の会話を比較するにあたり、人間関係と場面を統制するためにロールプレイによって会話データを収集した。ロールカードの場面は、様々な感謝場面をドラマのシナリオから抽出した秦(2002)や、談話完成テストの記述を分類した赤堀(1995)で挙げられた恩恵の種類をもとに、大きく3種類、「直接的援助」「物質的恩恵」「間接的援助」に設定した。

(1) 間接的援助「人の紹介」、(2) 物質的恩恵「おみやげ」、(3) 直接的援助「レポート手伝い」で、恩恵を受ける場面とその後日の場面を1セットにした(巻末資料1)。それぞれの恩恵の内容は大学生が経験することが多いと考えられる内容にした。先行研究の日中比較では友人関係における使用に特に差異が見られることから、人間関係は「学外で出会ったことのない程度の友人」と設定し、実際に友人のペアで行った。ロールカードと手順については中国語訳を付け中国語でも補足説明した。調査協力者は CNS と JNS の各2名で、CNS は留学生、JNS は大学院生として東京の大学に所属している。巻末資料2に属性を示す。CNS ペアによる中国語会話および

JNS ペアによる日本語会話の各6場面を録音録画し、文字化してデータとした。赤堀(1995)や田中(2006)や秦(2002)では、「ありがとう」等の感謝の「定型表現」と、様々な「感謝ストラテジー」を区別して分析しているが、本稿では「定型表現」は「発話内行為」と記して区別した。感謝ストラテジーのコーディングは、赤堀(1995)と、赤堀(1995)を踏襲して細分化した秦(2002)、および Eisenstein & Bodman(1993)を参照して行った。これらの先行研究のコードに併記されている発話例と、本稿の会話例を照らし合わせ、該当するコードを付けた。Eisenstein & Bodman(1993)は英語の談話分析だが、感謝される側のコードを設定している唯一の先行研究であるので、本稿のコーディングもこれに従った。コードは以下の会話例において斜体で記す。発話例で使用した記号は宇佐美(2011)に基づく。

5. 結果

5.1 恩恵を受けた側による「後日の再感謝」

5.1.1 間接的援助を受けたことへの再感謝

例1は、JNS 同士の「1-2 人の紹介後日」の場面である。JNS1 が1行目で(以下「行目」を省略し、会話番号で記す)。「このあいだ紹介していただいた」と友人に対しても「ていただく」と授受動詞の敬体で言う(以下、注目した発話例は行頭に「→」を記す)。待遇レベルをシフトし、ポライトネスを示すこと(三牧, 2002)で、あらたまって恩恵の大きさを示している。JNS1 は続いて「ちゃんとお会いすることできた」と報告し、3と5で「ありがとう」「すごく助かって」と感謝する。感謝に対して JNS2 は6で「いえいえいえ」と自分の行為が相手に恩恵を与えたことを否定する。さらに JNS1 が7で「それでなんか色々話して聞けてよかったです」と再び敬体であらたまって喜びの言葉で感謝を表現し、JNS2 が「よかったねーそれなら」と喜びを表明する。

【例1】「1-2 人の紹介後日」JNS ペア²

- 1 JNS1 あ、ななちゃん(うん)、このあいだ(うん)紹介していただいた先輩に(うん)、このあいだお会いして、あの、ちゃんとお会いすることできた。
[利益に関する言及] [敬体の使用]
- 2 JNS2 あ、できたんだ。よかったー。[喜びの

- 表明]
- 3 JNS1 ありが<とう。>{<} [感謝の表明]
- 4 JNS2 <うん>{<} [否定]
- 5 JNS1 すごく助かって。[受益の事実の表明]
- 6 JNS2 いえいえいえ。[否定]
- 7 JNS1 それでなんか色々話して聞いて (うんうん) よかったです。[利益に関する言及]
[敬体の使用] [喜びの表明]
- 8 JNS2 よかったねーそれなら。

次に中国語母語話者同士の会話を見る (例 2)。場面「1-2 人の紹介後日」の CNS1 は CNS2 に紹介を受けた先輩と会ったという「報告」はするものの、話題は CNS2 が提示した休みの予定についてであり、紹介を受けた恩恵に対する感謝表現は表れない。

【例 2】「1-2 人の紹介後日」CNS ペア

- 1 CNS2 可可，好久不见，那个暑假准备干点儿什么呀？
(カカ、ひさしぶり。この夏休み何をする予定なの?)
- 2 CNS1 啊啊，暑假呀，暑假，啊对了，我昨天，昨天见丽丽说的前辈，然后告诉我很多求职的信息，但是我的职位好像不太符合他们公司的要求，所以暑假我准备回家去找那边再求求职，然后再看一下我家附近有没有适合我的职位，所以大概暑假就是，投简历找工作啦。
(ああ、夏休みね、夏休みは、あそうだ、私昨日、昨日リリが言った先輩に会って、それで彼女は私に就職情報をたくさん言ったけど、私のポストは彼らの会社の要望とあまり合わないみたいで、だから夏休みに実家に帰ってまた自分に合うポストがないか家の近くで探してみるつもり。だから、だいたい夏休みは履歴書を送って仕事を探すよ。)
- 3 CNS2 也挺好，那，那边不是比较近嘛，你家里离比较近，比较方便。
(それもいいね。その辺は近いね、家に近いほうが便利だよ。)

人の紹介という間接的援助に対して、JNS は後日再会した場面の冒頭で感謝の発話内行為と感謝ストラテジーを使用して再感謝したが、CNS は再感謝しなかった。

5.1.2 物質的恩恵を受けたことへの再感謝

まず、日本語母語話者同士の会話を見る。例 3 の場面「2-2 おみやげ後日」では、「おはよー」のあいさつ (1, 2) が終わった直後に、おみやげをもらった JNS2 が「あの昨日、もらったお菓子食べたんだけど、すごいいいしかった」(3) と「プラス評価」で報告して「ありがとねー」(5) と感謝す

る。JNS1 はそれに対し「あ、よかったー」(4) 「ほんとによかった」(6) と「喜び」を示して反応し、続いて「私もあれ好きだから気に入ってくれたらよかったんだけど」(8, 10) と喜びの理由を示す。JNS1 が JNS2 を喜ばせるため、つまり相手の利益のためにおみやげを選んだことに対し JNS2 は「ありがとう」(11) と再び感謝する。2 回感謝表現を繰り返した JNS2 に対して JNS1 は話題を急に転じ、感謝の談話を終わらせる。

【例 3】「2-2 おみやげ後日」JNS ペア

- 1 JNS2 あ、まりちゃんおはよー。
- 2 JNS1 おはよー。
- 3 JNS2 あの昨日、もらったお菓子食べたんだけど、すごいいいしかった。[プラス評価]
- 4 JNS1 あ、よかったー。[喜びの表明]
- 5 JNS2 ありがとねー。[感謝の表明]
- 6 JNS1 ほんとによかった。[喜びの表明]
- 7 JNS2 ほんとにおいしかった。[プラス評価]
- 8 JNS1 私もあれ好きだから<{<}>。
- 9 JNS2 <あ、そうなん>{<}だ。
- 10 JNS1 気に入ってくれたらよかったんだけど。[喜びの表明]
- 11 JNS2 ありがとう。[感謝の表明]
- 12 JNS1 ななちゃんこの授業とるって聞いて、私も来てみたんだけど。[話題変更による感謝談話の終了]

CNS の場面「2-2 おみやげ後日」(例 4) では、昨日のおみやげに対する「ありがとう」等の発話内行為は表れなかったが、感謝ストラテジーが使用されていた。CNS1 はもらったおみやげを話題にし (3)、「昨日私にくれたあの、あのお土産とてもおいしかった。すごく好き。かわいいしおいしいし」と「プラス評価」の感想を述べ、CNS2 は CNS1 を実家に連れて行くと応じた。CNS1 は、「次は S 市 (自分の故郷) のおみやげを持って」と「お返しの言及」をする (5)。続く CNS1 の 7 ではさらにおみやげに対する「プラス評価」の発話があり、おみやげのほめに対して CNS2 が感謝を表明した。その後 CNS1 は、再び「お返しの言及」(9) をする。5 と 9 で「お返しの言及」が繰り返された。発話内容は互いに自分の故郷に誘い合うという友人関係を進展させる展開になった。

【例 4】「2-2 おみやげ後日」CNS ペア

- 1 CNS1 丽丽，你也来上课呀！
（リリ、あなたもこの授業を受けるのね！）
- 2 CNS2 哎呀，你决定来上课了吗？
（あらっ、この授業を受けるの？）
- 3 CNS1 是，还是我决定了。对了，昨天那个送我，那个，那个，那个小礼物特别好吃。特别喜欢那个。又可爱又好吃
（うん。決めたよ。そうだ、昨日私にくれたあれ、あの、あのお土産とてもおいしかった。すごく好き。かわいいしおいしいし。） [プラス評価]
- 4 CNS2 是吗？那，下次我回国，下次我带你去我家那边儿吃。
（そう？じゃ、次に帰国した時は、あなたを私の実家のほうに食べに連れていく。）
- 5 CNS1 下次给你带点S市那个特产。
（次はあなたにS市の名産品を持ってくる。） [お返しと言及]
- 6 CNS2 hh 好，谢谢。（うん、ありがとう。）
[感謝の表明]
- 7 CNS1 巧克力挺好吃的。
（チョコレートがとてもおいしかった。） [プラス評価]
- 8 CNS2 谢谢。（ありがとう） [感謝の表明]
- 9 CNS1 你要有时间过去的话。那边龙眼特别好吃。不过，冷的带不过来。
（あなたが遊びに行く時間ができたらね。あそこの竜眼はとてもおいしいよ。でも冷たいのは持って来られない。） [お返しと言及]
- 10 CNS2 那，我下次去找你玩儿（嗯嗯）。然后一趟带我去。
（じゃ、私は、次は遊びに行くよ（うんうん）。それで連れて行って。）

おみやげという物質的恩恵に対して、JNS は再会した場面の冒頭で、感謝の発話内行為を繰り返したが、CNS は発話内行為をせず、「お返しと言及」と「プラス評価」の感謝ストラテジーを繰り返した。

5.1.3 直接的援助を受けたことへの再感謝

例5の場面「3-2 レポート手伝い後日」では、出会った直後に JNS1 が「昨日、レポート提出できた」(3) と報告し、JNS2 が「あ、よかったね」(4) と喜びを示し、JNS1 が「ななちゃんのおかげで」と「受益の事実を表明」(5) して感謝する。それに対して JNS2 が「いえいえいえ」と与えた恩恵を否定する。続いて JNS1 は「ほっとした」と「心的態度の表明」で相手からの恩恵を表現する (7)。

【例5】「3-2 レポート手伝い後日」JNS ペア

- 1 JNS1 あ、ななちゃん。
- 2 JNS2 おお、まりちゃん。
- 3 JNS1 昨日、レポート提出できたー。 [利益に関する言及]
- 4 JNS2 あ、よかったね。 [喜びの表明]
- 5 JNS1 ななちゃんのおかげで。 [受益の事実の表明]
- 6 JNS2 いえいえいえ。 [否定]
- 7 JNS1 ほっとしたよ。 [心的態度の表明]
- 8 JNS2 おつかれさまー。

同じ場面 3-2 で CNS 同士の会話 (例 6) では、レポート援助について言及されない。発話開始の食堂で出会って CNS2 が CNS1 に声をかける 1 から最後まで、感謝の発話内行為も、「利益の言及」等の感謝ストラテジーもいずれも見られなかった。なお、ロールカードには「昨日你提交了 B 帮助过你的报告书 (昨日あなたは B さんに手伝ってもらったレポートを提出しました)」と明記していた。

【例6】「3-2 レポート手伝い後日」CNS ペア

- 1 CNS2 丽丽，你也在排队啊。
（リリ、あなたも並んでるんだ。）
- 2 CNS1 我排队。今天食堂挺多人的。
（並んでる。今日の食堂は人が多いね。）
- 3 CNS2 挺多人啊。（人がすごく多いね。）
- 4 CNS1 啊也是。（そうね。）
- 5 CNS2 你吃点啥？（何食べるの？）

レポート手伝いという直接的援助に対して、JNS は後日再会した場面の冒頭で、感謝ストラテジーを使用して再感謝したが、CNS は再感謝しなかった。

5.2 恩恵を与える側による「後日の再感謝」

5.2.1 物質的恩恵「おみやげ」を与える場面の再感謝

JNS は感謝する側だけでなく感謝される側までも自らの行為に対して以前の恩恵を関連づけて相手に感謝している現象が見られた。これについても、これまでの量的研究では取り上げられていない。以下で詳しく検討する。

おみやげを手渡す場面 2-1 (例 7) で、JNS1 はお土産を渡す相手 JNS2 から受けた以前の恩恵に言及して、「色々お世話になって」(7)、「色々ね、就職のね、相談にもものってもらったし」(9)「先輩とか紹介してもらった」(11) と「受益の事実を表明」する。13 で「それでちょっとこのおみやげを持っ

てきた」と続け、おみやげの理由として以前に受けた恩恵を位置づけている。

【例7】「2-1 おみやげ」JNS ペア

- 1 JNS1 ひさしぶり。
2 JNS2 ひさしぶり。
3 JNS1 春休みどうだった？
4 JNS2 まあ勉強ばかりだったけど、なんとなく楽しくは過ごせたよ。
5 JNS1 そっか。
6 JNS2 まりちゃんは？
→7 JNS1 私いちおう実家に帰って、でちよつと、ななちゃんにはほんとに色々お世話になって。[受益の事実の表明]
8 JNS2 いや<いやいや><い>
→9 JNS1 <色々ね、就活><い>のね、相談にものってもらってたし。[受益の事実の表明]
10 JNS2 んー。
→11 JNS1 それで先輩とか紹介してくもらった<い>り。[受益の事実の表明]
12 JNS2 <うんー><い>
→13 JNS1 それでちよつとこのお土産<を持って><い>来たんですけど。
14 JNS2 <えっ！><い>こんなーすごいものを。

これに対し、CNS のおみやげを渡す側は以前の恩恵を関連づけていない(例8)。CNS1 は「私仕事見つかったよ。しかも職場は家からとても近い所だよ」(7)と就職活動の結果を報告するが、CNS2 から以前に人の紹介を受けたことについては言及しない(9、11)。続いて13で「そうだ、私あなたにおみやげ、omiyage、X市の有名なお菓子を持ってきたよ。食べてみて」と理由づけはしないまま、おみやげを渡す。

【例8】「2-1 おみやげ」CNS ペア

- 1 CNS1 啊，丽丽。(あ、リリ。)
2 CNS2 好久不见。(ひさしぶり。)
3 CNS1 好久不见<笑い>。(ひさしぶり。)
4 CNS2 怎么样最近？(最近はどう？)
5 CNS1 还好啊。忙点儿，挺好。(元気よ。ちよつと忙しかった。とても元気)
6 CNS2 那个，那个考试怎么样了呀。(あの、あの試験はどうだったの。)
→7 CNS1 还不错。我找到新工作呀！而且工作的地方离我家挺近的。(よかったよ。私仕事見つかったよ。し

かも職場は家からとても近い所だよ。)

- 8 CNS2 那挺好啊。(それはよかったね。)
→9 CNS1 方便。(便利。)
10 CNS2 对。(うん。)
→11 CNS1 毕业以后我就要回国就职了。(卒業後は帰国して就職する。)
12 CNS2 恭喜恭喜。(おめでとう。)
→13 CNS1 哈哈，对了，我家带过来的礼物，omiyage，X市那边特别有名的小吃带过来给你尝一尝。(はは、そうだ、私あなたにおみやげ、omiyage、X市の有名なお菓子を持ってきたよ。食べてみて。)
14 CNS2 啊，谢谢谢谢，特别期待。我今天有点事儿，然后那个一会儿还得去事务所一趟。(あ、ありがとありがと。とても楽しみ。私今日ちよつと用事があつて。これから事務室にも行かないといけないの。)

おみやげという物質的恩恵を与える場面で、JNS は以前の恩恵に言及して再感謝したが、CNS は以前の恩恵に言及しなかった。

5.2.2 物質的恩恵「食事のおごり」を申し出る場面の再感謝

レポートの援助を受けた後日の場面 3-2 (例9) では、JNS1 は JNS2 に対し、食事のおごりの申し出をする。その際に「でもそんなこと言わずに、この前いろいろやってもらったから私今日出すよ」(15)と言って「この前」の恩恵を申し出の理由として示す。JNS2 がおごりの申し出を受け入れて感謝する(22)と、「いややややや、全然お礼だけだから」と自らが与える恩恵を「お礼」と位置づけた。

【例9】「3-2 レポート手伝い後日」JNS ペア

- 10 JNS2 今、でも、なんかお財布にお金があまり、恥ずかしいんだけどお財布にお金なかったから、コロッケにしようと思って。
11 JNS1 え？コロッケだけで足りるの？<笑い>
12 JNS2 コロッケ好きだから全然。
13 JNS1 えーそれじゃ足りないと思うから。
14 JNS2 でもお金がないから今日はコロッケでいっかなーって感じ。
→15 JNS1 でもそんなこと言わずに、この前いろいろやってもらったから私今日出すよ。[受益の事実の表明]
16 JNS2 いやいやややや、そんな、申し訳ないから。
17 JNS1 私から出しちゃって、私が出すよ。

- 18 JNS2 んーく笑い「いいのかなー。」
 19 JNS1 別に。何か好きな物頼んで。
 20 JNS2 じゃご飯とみそ汁もつけちゃおっかな。
 21 JNS1 おく笑い「ほんとにそれでいいの？」
 22 JNS2 わーありがとー。めっちゃ助かるー。
 →23 JNS1 いややややや、全然お礼だけだから。
 [感謝の表明]

CNS の同じ場面 3-2 (例 10) では、食事の援助を申し出る際に、以前に相手から受けた恩恵については言及しない。CNS1 は「没事儿」「没关系」⁴ (いいよ) を使用し、自らが与える恩恵を否定する発話を 9、11、13、15 と繰り返したただけであった。

【例 10】「3-2 レポート手伝い後日」CNS ペア

- 8 CNS2 谁知道怎么就是想吃肉。今天正好有啊！红烧肉是挺好。不过，之前洗澡把那个卡里的钱全用光了，剩的钱不多。
 (なんだかむしょうに肉が食べたい。今日はちょうどあった！ホンシャオロウがいい。だけど、さっきカードの中のお金を全部使っちゃったし、小銭もあまり残ってないんだ。)
 →9 CNS1 没事儿。你吃吧。我这有。
 (だいじょうぶ。食べなよ。私がある。)
 10 CNS2 刷卡= (カードを使うと)
 →11 CNS1 =你拿着吃吧，没事儿。
 (持って行って食べなよ、だいじょうぶ。)
 12 CNS2 明天给你= (明日渡す)
 →13 CNS1 =啊，没关系，没关系。
 (あ、かまわない、かまわない。)
 14 CNS2 等都完的时候再还你钱啊。今天谢…谢=
 (使ったらお金を返すよ。今日はあり…がとう)
 →15 CNS1 =啊，没事儿没事儿，你吃吧，我也排队我们一起排吧。
 (あ、いいよいいよ、食べてよ、わたしも列に並ぶ一緒に並ぼうよ。)

食事をおごるという物質的恩恵を与える場面でも、JNS は以前の恩恵に言及して再感謝したが、CNS は以前の恩恵に言及しなかった。

6. 考察

本稿では、「後日の再感謝」の有無と談話のやりとりに着目しながら日本語と中国語の感謝場面の会話を質的に分析し、以下の 2 点の結果を得た。

第一に、恩恵を受けた後日の場面 3 パターンにお

いて、JNS は発話内行為や、「もらう」「くれる」の授受動詞や、「おかげ」などの相手からの恩恵を示す表現を使用し、複数の感謝ストラテジーを使用して感謝を表明した。「後日の再感謝」のストラテジーについては、「利益に関する言及」や「受益の事実の表明」(秦, 2002) として捉えることができる。一方、CNS は「直接的援助」と「間接的援助」の後日の場面には再感謝を行わなかった。CNS は「物質的恩恵」に対しては、発話内行為は行わなかったが、感謝ストラテジーを繰り返し使用して感謝を表明した。

第二に、JNS だけに見られた特徴として、恩恵を与える側による「後日の再感謝」が示唆された。相手に恩恵を与える場面、つまり、みやげを渡す、食事をおごる等、相手から感謝されることが予想される場面で、自らが与える恩恵を以前の恩恵に関連づけて相手に感謝するという発話である。一方、CNS には恩恵を与える側の再感謝は見られなかった。

以上のように、中国語と比較すると日本語の談話では、恩恵を受けた後日の場面で、感謝する側だけでなく、恩恵を与える側すなわち感謝される側にも、以前の恩恵に言及して相手に感謝するという「後日の再感謝」が使用されることが明らかになった。

では、「後日の再感謝」は談話においてどのような機能を果たしているのだろうか。後日の場面ではないが、Ohashi (2013:105-108) の JNS の感謝談話の分析によれば、日本語には「ありがとう (感謝) - いえいえ (否定) + こちらこそ (感謝返し)」という発話連鎖が典型的に表れる。これにより「互いの『フェイス』(Goffman, 1967) に配慮しあい、debt-credit equilibrium (貸し借りの均衡) を相互に調整しあって最小限にする」⁶。また、「そのバランスシートは再会の際に再び有効になり互酬関係が継続する」(Ohashi, 2013:127) という。本稿で検討した後日の場面においても、Ohashi (2013) の言う「貸し借りの均衡」を保つように JNS は行動するのではないだろうか。つまり、以前の恩恵に言及して感謝を述べることで相手への「借り」をなるべく返そうとするストラテジーである。また、あらためて以前の恩恵について感謝することは、相手のポジティブフェイスに配慮していることから、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー (Brown & Levinson, 1987) ともいえる。

さらに、再会場面の冒頭に現れるだけでなく、恩

恵を与える場面で与える側によって使用される「後日の再感謝」はどのようなストラテジーなのだろうか。恩恵を与える側は、相手からの以前の恩恵に言及することで、自らを感謝される側ではなく、同時に感謝する側であることを主張する。これは、感謝される側による、双方が同時に相手に感謝する状況を作り出すストラテジーと言えるだろう。その背景としても、「貸し借りの不均衡を最小限にする意識が働く (Ohashi, 2013)」のではないか。それに加えて、相手の視点に立って相手の負担（ここでは恩恵を受ける「借りの意識」としての負担）に配慮することも考えられる。相手の負担への配慮は、これまでの日本語の感謝表現研究で解明されてきた「すみません」が感謝の言葉として使用される「わび表現の代替」現象と関連があるだろう。熊取谷 (1990)によれば、「わび表現の代替」は「話し手指向の状況を聞き手指向の状況として捉えるという視点の移動」であり、「日本語では感謝における状況転換が頻用されることから、この方策は高度に慣習化されたもの」(熊取谷, 1990:38)である。本稿で検討した恩恵を与える側による「後日の再感謝」も、自分の「貸し」ではなく相手の「借り」へ視点を移動し、相手の「借り」の負担を軽減しようとしている。つまり、「後日の再感謝」は談話の中で「わび表現の代替」という日本語の感謝表現と同じ機能を持つ慣習化されたストラテジーと言えるのではないか。以上のことから、「後日の再感謝」は「わび表現の代替」と同様に、日本語の感謝表現の重要な特徴であると考えられる。

7. まとめと今後の課題

本稿は JNS と CNS の 1 組ずつという少数の分析結果ではあるが、日本語では友人同士が後日再会した際にも、「以前に受けた恩恵に言及」して感謝を表すことと、再会の場面に限らず、相手へ恩恵を与える場面でも「以前に受けた恩恵に言及」して相手に感謝を表すという特徴を、中国語との比較により逆照射し、質的に示すことができた。「後日の再感謝」と感謝ストラテジーの言語間の差異については量的に調査する必要がある、結論には至っていない。データ数を増やした上で検証することを今後の課題としたい。なお、本研究の目的は学習者に対し、「日本人は後日にも感謝を言う」と JNS の日本語を本質主義的に教育することではなく、ましてや学

習者に「日本人らしい」表現を押しつけることでもない。目標言語に特徴的な語用を、自立した学習者として選択的・戦略的に使用できることが望ましいと考える。JNS の CNS に対する「感謝の気持ちがない」「礼儀を知らない」等の誤解が防げるようになることや、CNS 学習者の表現の幅と JNS の理解の幅が広がることを望む。

注

1. 本稿で言う「恩恵」とは、Coulmas (1981) の言う *indebtedness* のことで「恩義」とも訳される。
2. 本稿で言うストラテジーとは「発話行為を遂行するためのストラテジー」(Gumperz, 1982) のことである。
3. CNS の発話はすべて日本語訳を付け、() 内に記した。
4. 日本語学習歴や日本滞在歴のない CNS のデータを検討することは今後の課題としたい。
5. 「没事儿」は「なんでもない」「たいしたことない」、「没关系」は「かまわない」「だいじょうぶ」という意味で、いずれも感謝に返答する際の定型表現としても用いられるので文脈に合わせて意識した。
6. Ohashi (2013) からの直接引用部分の和訳はすべて筆者による。

参考文献

- 赤堀由紀子 (1995) 「日本語母語話者の感謝表現—ストラテジーの種類とその使い分けを中心に—」『待兼山論叢日本学篇』(29), 49-63.
- 宇佐美まゆみ (2011) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (BTSJ) 2007 年 3 月 31 日改訂版」
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj070331.pdf>
(2016 年 3 月 15 日)
- 川村よし子 (1991) 「日本人の言語行動の特性」『日本語学』10(8), 明治書院, 51-63.
- 熊取谷哲夫 (1990) 「日本語の『感謝』における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』(52), 36-44.
- 秦秀美 (2002) 「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」『日本語教育』(114), 70-79.
- 曹美蘭 (2008) 「『ありがとう』と『すみません』から見る中日言語表現の違い」日本企業文化と異文化コミュニケーション国際シンポジウム発表要旨, 2008 年 8 月 2 日, 貴州民族学院
- 田中友愛 (2006) 「感謝表現の日・台対照研究—『定型表現』と『定型表現以外のストラテジー』の使用を中心に—」『日本語・日本文化研究』16, 193-202.
- 三牧陽子 (2002) 「待遇レベル管理からみた日本語母語話者間のポライトネス表示：初対面会話における『社会的規範』と『個人のストラテジー』を中心に」『社会言語科学』5(1), 56-74.
- 李華勇 (2014) 「日本語と中国語における『感謝の言語行動』の対照研究」大阪大学言語文化研究科博士論文

(未公開)

Brown, P. & Levinson, S. (1987). *Politeness: some universals in language usage*, Cambridge: Cambridge University Press.

Coulmas, F. (1981). Poison to your soul: Thanks and Apologies contrastively viewed. In F. Coulmas (Ed.), *Conversational Routine*, The Hague: Mouton. 69-91.

Eisenstein, M. & Bodman, J. (1993). Expressing Gratitude in American English, In G. Kasper & S. Blum-Kulka (Eds.), *Interlanguage Pragmatics*, Oxford: Oxford University Press. 64-81.

Goffman, E. (1967). *Interaction Ritual: Essays on Face-to Face Behavior*, New York: Anchor Books.

Gumperz, J. (1982). *Discourse Strategies*, Cambridge: Cambridge University Press.

Ohashi, J. (2013). *Thanking and Politeness in Japanese-Balancing Acts in Interaction*, Palgrave Macmillan.

稿末資料 1 ロールカード (併記した中国語訳は省略)

1-1. 人の紹介

1-1 大学のカフェで

A: あなたは学生です。あなたの就職したい会社の先輩を友人の B さんが知っているのと聞いて、B さんと会う約束をしました。B さんに先輩を紹介してほしいと話します。(あなたから話しましょう。)

1-1 大学のカフェで

B: あなたは学生です。友人の A さんに協力しましょう。

1-2. 人の紹介後日

1-2 大学で

A: 昨日、B さんから紹介された先輩と会って会社の話を聞くことができました。今、大学でさんと会いました。長期休みの予定について話しましょう。あなたは就職活動をしたり、実家に帰る予定です。(あなたから話しましょう。)

1-2 大学で

B: 大学で A さんと会いました。長期休みの予定について話しましょう。あなたは資格試験の勉強で忙しくなりそうです。

2-1. おみやげ

2-1 大学のカフェで

A: 長期休みが終わったので、B さんのために買ったおみやげを渡します。おみやげは大きな箱に入った、値段が高いおいしいお菓子です。自分の故郷の名産品です。(あなたから話しましょう。)

2-1 大学のカフェで

B: 長期休みが終わりました。A さんと約束して、ひさしぶりに学校のカフェで会います。A さんはきれいに包装された大きな箱を持ってきました。あなたは驚きます。しかし、明日の授業の登録のために急いで事務室に行かなければならず、箱を受け取っても開けずに、少し話をしたら帰ります。

2-2. おみやげ後日

2-2 教室で

A: 昨日、B さんが登録するといっていた授業が今日から始まるので教室に行きました。新しい授業でまだ何も分からないので、この授業をとるか決めていません。B さんが教室に入ってきました。その後は自由に会話をしましょう。

2-2 教室で

B: 昨日、A さんからもらったお菓子をとてもおいしく食べました。今日は登録した授業が始まるので教室に行きました。新しい授業の内容も先生も分からないのですが専門の授業なので登録しました。教室には A さんが座っていました。隣に座って話しかけてください。(あなたから話しましょう。)

3-1. レポート手伝い

3-1 図書館で

A: レポート提出がもうすぐです。B さんは翻訳が得意だと聞いているので、レポートの翻訳部分を B さんに明日までにチェックしてほしいと頼みましょう。(あなたから話しましょう。)

3-1 図書館で

B: レポート提出がもうすぐです。あなたは翻訳が得意です。A さんから頼まれることを、手伝いましょう。

3-2. レポート手伝い後日

3-2 食堂で

A: 昨日、あなたは、B さんに手伝ってもらったレポートを提出しました。食堂に行くと、B さんが一人で列に並んでいます。B さんと一緒に食事をしたいと思います。B さんは何を食べるか迷っているようです。(あなたから話しましょう。)

3-2 食堂で

B: 食堂にいます。一人で列に並んでいます。財布に少ししかお金がないので何にしようかと考えています。A さんがこちらに歩いてきました。A さんと一緒に食事をしたいと思います。

稿末資料 2 調査協力者の概要

CNS ペアの仮名	CNS1 カカ	CNS2 リリ
年齢	23	24
日本語能力	上級 (N1)	上級 (N1)
日本滞在期間合計	2年2か月	1年2か月
日本人との会話機会	あまりない	ほとんどない
出身	東北	西部
JNS ペアの仮名	JNS1 まり	JNS2 なな
年齢	23	23
外国人との会話機会	ほとんどない	毎日のように
出身	関東	東海

“Re-thinking on Previous Indebtedness” as a Thanking Strategy of Japanese Language — Compared with Chinese Language Discourse —

ICHIHARA Asuka

Abstract

Japanese express gratitude towards a benefactor not only the first time but also when they see him again next time while showing previous indebtedness such as “Konoaida wa doumo”. According to a questionnaire survey (Li, 2014), Japanese speakers use it more often than Chinese speakers do. How can the “re-thinking on previous indebtedness” as a thanking strategy through interactions of conversations be explained?

This paper revealed the difference of two languages’ speech acts by discourse analysis of conversations which derived from role-playing of university students who are familiar with each other. Consequently, on all three situations of reunion after getting benefits, Japanese speakers express gratitude whereas Chinese speakers do not use the illocutionary act of thanking at all. The speech act of thanking additionally has a variety of aspects: what is expressed through previous indebtedness is not only giving gratitude but also receiving thanks. That is, the benefactor produces the situation of mutually thanking. It is assumed that benefactor takes the view of interlocutor and considers his obligation, being conscious of “minimizing the imbalance of debt-credit equilibrium” (Ohashi, 2013).

【Keywords】 Expressions of gratitude, Thanking Strategies, Contrastive Pragmatics, Discourse Analysis, Role-playing

(Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University)